

第 17 回輸送現象国際会議 (ISTP-17) 報告

Report on the Seventeenth International Symposium on Transport Phenomena

中川 慎二 (富山県立大学)

Shinji NAKAGAWA (Toyama Prefectural University)

e-mail: snakagaw@pu-toyama.ac.jp

2006年9月4日(月)から8日(金)にかけて、The Pacific Center of Thermal-Fluid Engineering (PCTFE)主催の第17回輸送現象国際会議(the 17th International Symposium on Transport Phenomena: ISTP-17)が富山国際会議場にて開催された。約200件の一般講演があり、24カ国から210名の参加者が集まった。熱物質移動に関する様々な分野の論文が集まり、従来にも増して、多くの研究者・技術者が参加された。また、アメリカの Prof. Agonafer (University of Texas at Arlington)と Prof. Ortega (Villanova Univ.), 韓国の Prof. Hyun (KAIST), 日本の望月正孝氏(フジクラ)による4件のKeynote講演があった。

電子機器冷却のセッションの1つでは、中山恒先生の70歳をお祝いし、これまでの貢献をたたえるためのパネルセッションが企画され、活発な議論が交わされた。



図1 Panel Session to honor Dr. Nakayama's 70th birthday [上段左から 石塚先生(富山県大), 鈴木氏(日立), 矢澤氏(ソニー); 下段左から Prof. Behnia (Univ. of Sydney), Prof. Agonafer, 中山先生, Prof. Joshi (Georgia Institute of Technology)]

Banquet は富山全日空ホテルで開催された。本会議の Chairman である石塚先生(富山県大),

PCTFEのPresidentであるProf. W.-J. YANG, Vice Presidentであり日本伝熱学会会長の望月貞成先生(東京農工大), 日本機械学会会長の笠木伸英先生(東京大)らが登壇され, ISTP や PCTFE への熱い思いと思い出話が披露された。1985年の第1回から続く学会の伝統を実感した。

富山の伝統芸能として、「獅子舞」と「こきりこ」が演じられた。獅子舞は江柱町で傳承されているもので、迫力のある舞と演奏で、大いに盛り上がった。「こきりこ」では、ささら等の珍しい楽器で奏でられる民謡と、こきりこ踊りを観賞した。日本最古の民謡と伝えられるだけに、日本の伝統が感じられるものであり、海外からの参加者だけでなく、日本人参加者も興味深げに見物されていた。



図2 バンケットでの「こきりこ」

Keynote 講演者の Prof. Ortega が2週間前に NSF から Villanova University への引越した際、パスポートを貸倉庫の荷物の中に収納してしまい、急遽来日できないハプニングがあった。しかし、Prof. Ortega の熱意により遠隔教育システムを利用したビデオとスライドによる講演が行われた。初めての試みであったが、予定時間通りに keynote 講演を終えることができた。なお、筆者は実行委員の

1人として、この講演の準備を担当したが、突然の予定変更と準備不足のため、音響設備や画面切替に幾分問題があったことをお詫び申し上げる。

Villanova University では遠隔教育システムを完備しているようで、ビデオとスライドを組み合わせた教材が迅速に作成され、ウェブベース教材のアドレスが送られてきた。この教材を事前にダウンロードして再生した。質疑応答ができない点が問題であるが、技術の進展によっては、オンラインでの質疑応答も可能であろう。多忙な研究者による講演の方法として、将来的には、このような遠隔講演が実施されることも有るのかもしれない。

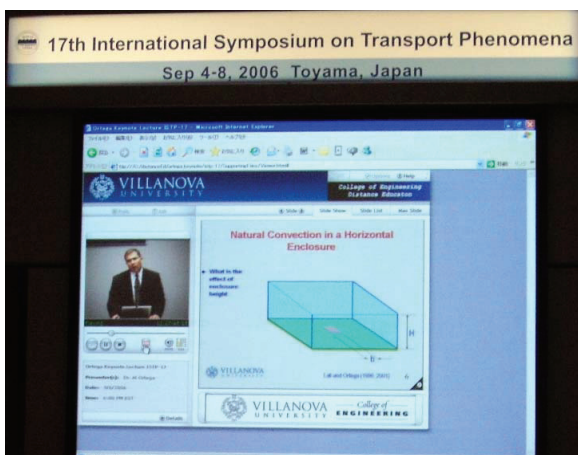


図3 遠隔教育システムを利用した Keynote 講演

参加者に富山近郊の文化と自然環境を楽しんで頂くために、世界遺産「白川郷」と立山へのオプションツアーが企画された。白川郷ツアーは残念ながら雨天での開催となったが、立山ツアーは快晴に恵まれた。年に数回あるかどうかという絶好の観光日和であり、紅葉には少し早い時期であったが、素晴らしい景色を堪能できた。世界各地での観光を重ねてこられた参加者からも、世界に誇れる観光地だとのお墨付きをいただいた。

本会議 Co-chairman の竹越先生（前富山大）と石塚先生が、多くの方に参加いただけるよう、参加登録料の低減に尽力された結果、井上科学振興財団、富山市、富山県高等教育振興財団、富山市コンベンションビューローの援助を受け、参加登録費用が 38000 円（早期割引）となった。各団体からの支援に対し深く謝意を表すとともに、石塚先生、竹越先生のご尽力に深謝いたします。また、平成 16 年伝熱シンポジウム開催のノウハウも生

かされ、両先生を中心として、参加者へ様々な心配りがなされた。LAN ケーブルを開放したネットワークサービスの提供場所は大盛況であり、多忙な日本人参加者のオアシスとなっていた。

本会議の実行委員を敬称略・順不同で列举すると、蛭子（ダイキン）、伏信（東工大）、岩崎（東芝）、小林（明治大）、小泉（コーセル）、丸山（東大）、三松（岐阜大）、宮崎（九工大）、宗像（産総研）、中別府（明治大）、中川（富山県大）、小原（東北大）、奥井（富山大）、坂村（富山県大）、瀬田（富山大）、芝原（大阪大）、鹿園（東大）、鈴木（日立）、多田（金沢大）、田坂（住友金属）、鳥居（熊北大）、矢澤（ソニー）となる。ご多忙中にも拘わらず、ご尽力いただいた各委員の方々、また、会議開催にあたってご協力頂いた皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。特に、富山大 奥井先生、瀬田先生とコーセル 小泉氏には、会議開催中の様々な仕事をお引き受けいただき、感謝の念に耐えない。

次回 ISTD は、2007 年 8 月 27～30 日に、韓国で開催される。詳細は、ISTD-18 の WEB サイトをご覧ください。（<http://www.istd-18.org/>）



図4 立山（室堂）